大会ガイドライン

大会は選手を育成する重要な機会である。

Players First！

はじめに

試合、大会は育成の大きな柱の一つ。
健康・安全の観点に加え、
育成、サッカーの習得の観点から
ガイドラインを提示する。

長期的視野に立った育成の過程における
技術の効果的習得

全てのチーム・選手が大会に出場、プレーできる
環境をつくる

はじめに

さまざまな状況 ⇒ 趣旨・意図が重要。

「プレーヤーズ・ファースト」の精神のもと、趣旨・意図にしたがって判断を。

趣旨に即するためには、ローカルルールの適用が必要になる場合もあり。

⇒47FAユースダイレクターの協議にて
　積極的適用を。

全員が関わることのできるゲーム形式

全てのポジションを経験
　～11人全員がフットボーラー～

体力に応じたピッチサイズと時間

たくましい選手の育成

大会が選手、指導者を育てる

全員が関わることのできるゲーム形式

人数に関して

８人制も11人制も同じサッカー

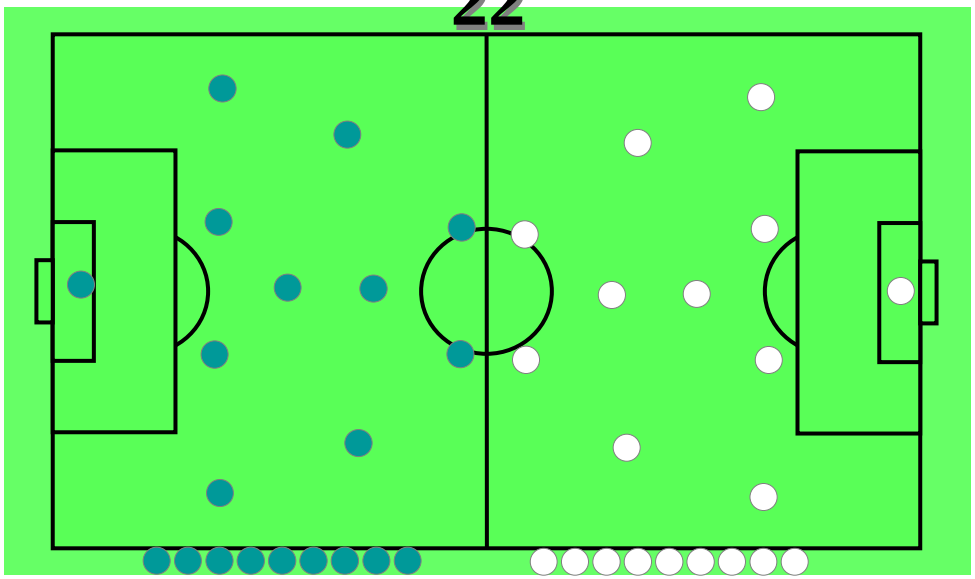
子どもがサッカーをより楽しむことができ、将来に
より良い選手になるための準備に適した形を

技術の習得　⇒　各自のボールタッチ数、全員の関わり

日本の課題であるゴール前の攻守の場面

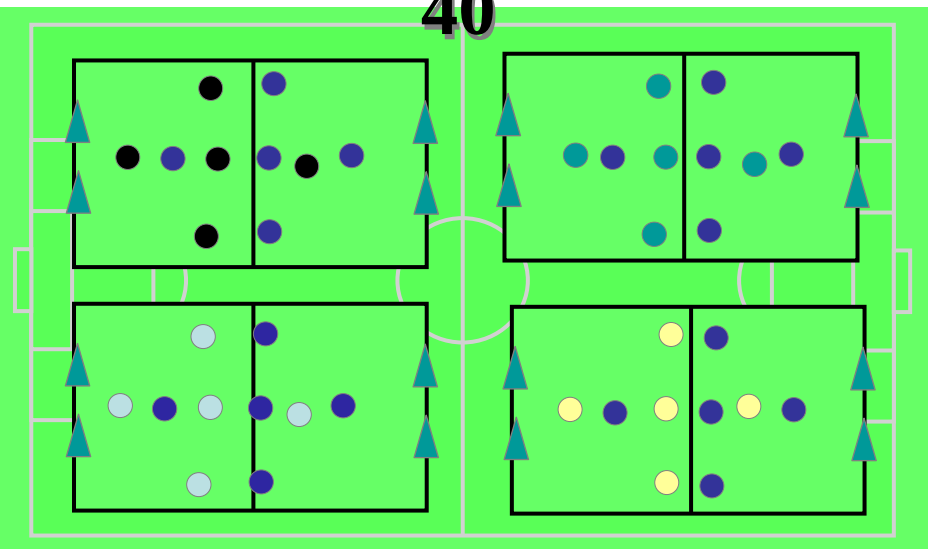
➡ U-12以下での８人制の推奨
11人制開始年齢は12歳。

22

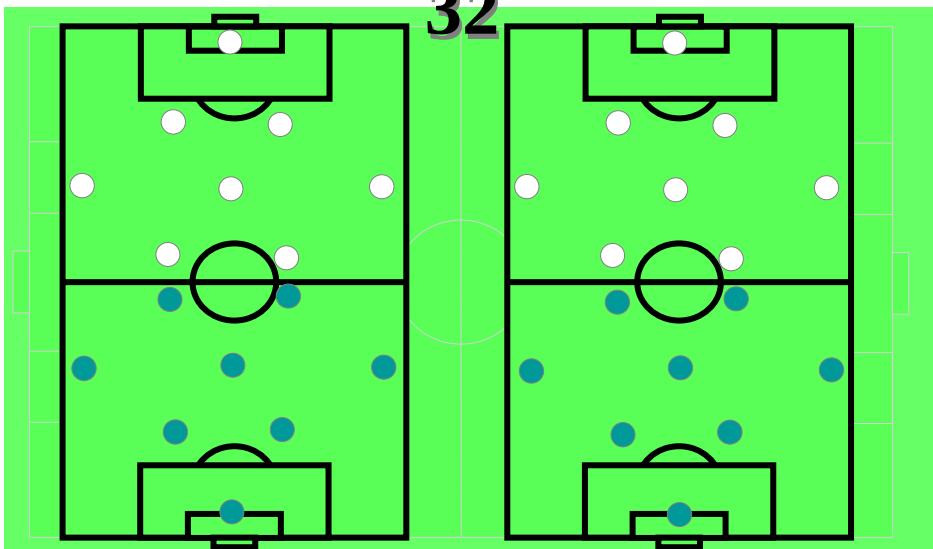


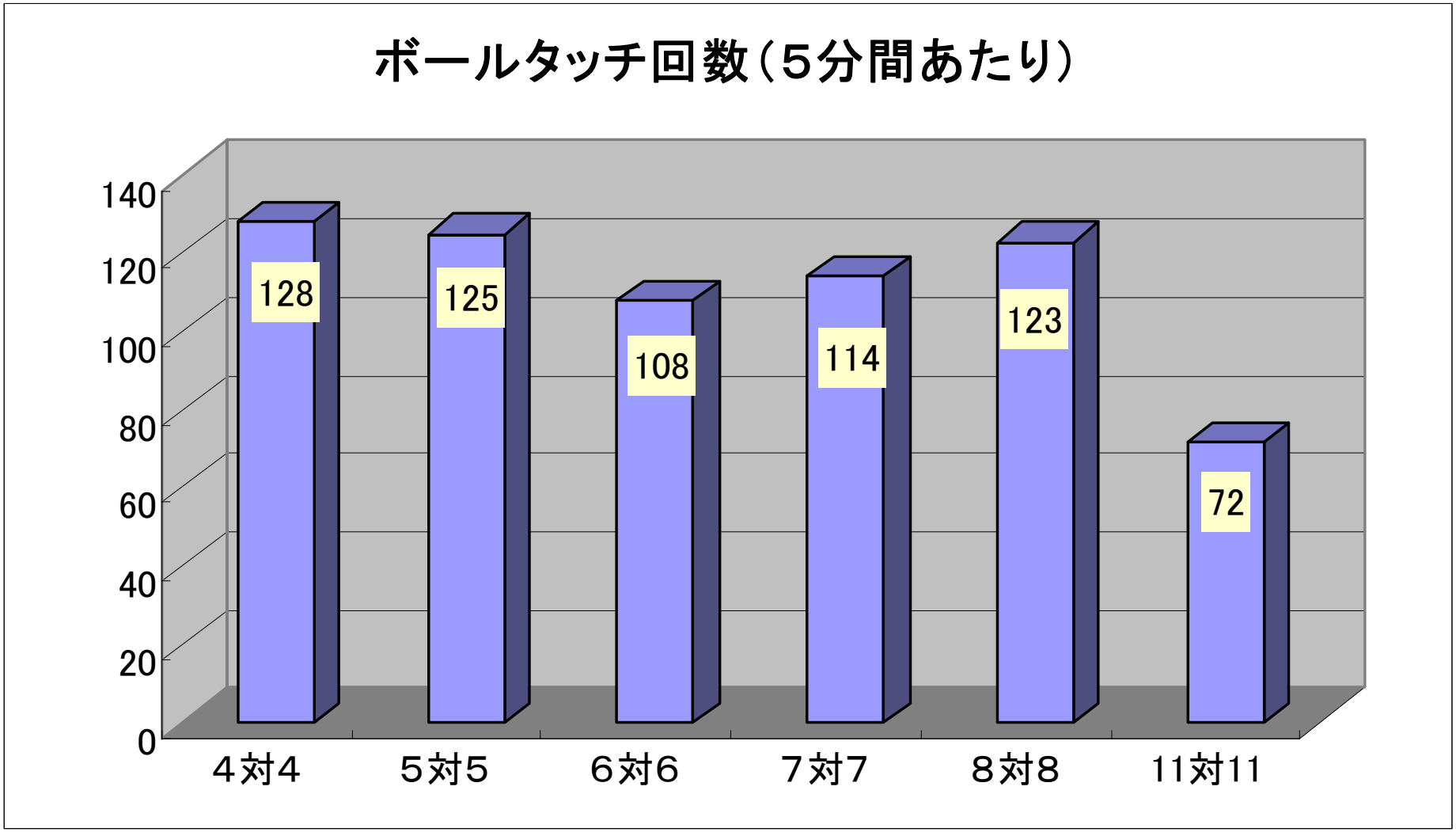
Maximum Participation, Maximum FUN

40



32

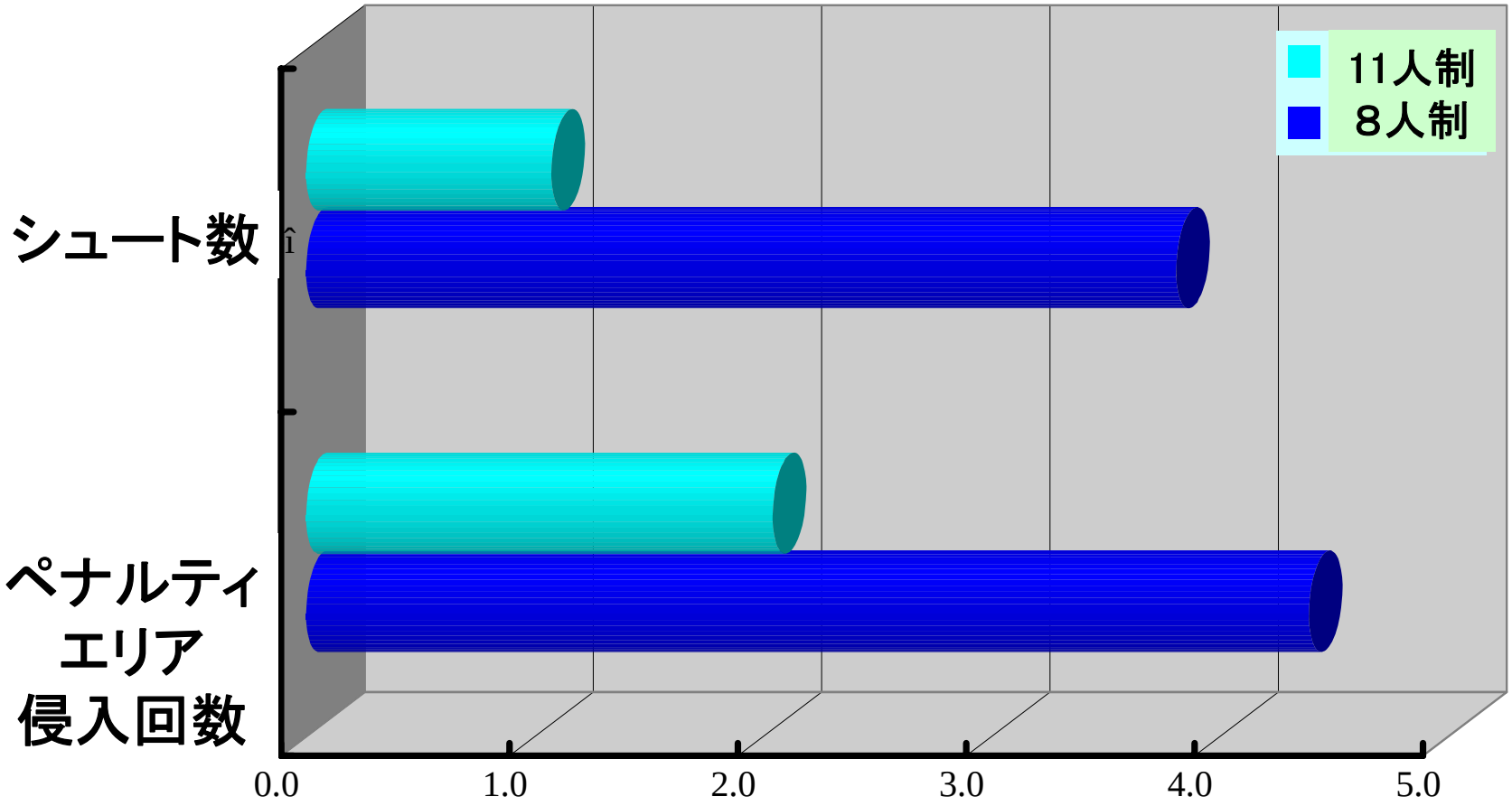




サッカーおもしろ科学　－科学的分析に基づいた合理的な練習－
掛水隆　大橋二郎　赤木真二　1996年　東京電機大学出版局

BOX近辺の攻防～試合人数による比較

１１人制：全日本少年サッカー大会
８人制：チビリンピック　　準決勝・決勝の比較



※Field Player 1人 1試合 (40min)あたり

全員が関わることのできるゲーム形式

交代に関して

全員が良いフットボーラーになるための経験を

低年齢では誰もが大きな可能性。
多くの子どもに多くの機会を。

1人が全体の2/3の時間をプレーすることを目標に。

ピリオド制の考え方

➡ 規程よりも、あくまでもフィロソフィーとして
多くの子どもに多くのプレー時間を。

全てのポジションを経験
～11人全員がフットボーラー～

U-14まではさまざまな経験をさせる。
⇒　さまざまな可能性、ゲーム理解

現代サッカーでは、GKも含め11人全員が良いフットボーラーであることがますます重要に。
⇒　GK／FP間を含め、ポジションのローテーションを。

➡ これを実現させるために、
ユニフォーム規程の柔軟な適用を。

体力に応じたピッチサイズと時間

ピッチサイズに関して

子ども達が十分に楽しむことができ、全員が常にプレーに関わることが重要。

技術、戦術の習得に適したサイズを考える。

➡ フルピッチの固定観念からの脱却

体力に応じたピッチサイズと時間

時間に関して

U-17世界大会を目指す場合には、15歳でアジアの1次予選を90分で闘う。
連戦を考慮しつつ、決勝戦等での導入検討を。

体力に応じたピッチサイズと時間

夏季大会に関して

可能な限り日中の暑い時間帯を避ける。
ナイトゲームも積極的に活用を。

選手の健康と安全を第一に考え、飲水タイムは必要に応じてとる。
⇒　ただし、プレー中の飲水については、飲水タイムに頼らずにとれるよう、日頃から指導し習慣づけを。

たくましい選手の育成

フェアプレーの推奨

１人制審判の積極的トライを。

プレーヤー、審判、指導者、保護者等ゲームに関わる全ての人々が互いに尊重し合うこと。

たくましい選手の育成

自立したたくましい選手の育成

技術と審判の協調
「スピーディーで、フェアで、タフなゲーム」を目指す

プレーを続ける意志があれば、アドバンテージの
適正かつ積極的活用を。

選手はプレーに集中。指導者からの働きかけが重要。

➡ 双方の努力で
自立したたくましい選手の育成を

大会が選手を育てる

リーグ戦の創出、リーグ戦文化の醸成・定着

長期にわたる、能力別リーグ戦の創出。

M-T-Mで、トレーニングとゲームによる選手の育成。
指導者のスキルアップ。

リスクにトライ

長期にわたるモチベーション。機会の継続。

➡ 運営の工夫、カレンダーの整理も含めた努力で
リーグ戦文化の醸成・定着を！

おわりに

大会ガイドラインはプレーヤーのためのもの

Players First !!